



ナタネの植え付け

鹿屋農業高等学校は、文部科学省から『目指せスペースシャリスト研究開発事業』の指定を受け、「鹿児島県大隅半島における環境共生型農業の実現に関する研究」に取り組んでいます。

具体的には、

- ①有機栽培および景観形成に関する研究
 - ②ナタネ油かすの家畜飼料化などに関する研究
 - ③バイオディーゼル燃料利用に関する研究
 - ④菜の花食材および生ゴミの有効活用に関する研究
- に取り組み、環境と共生できる農業後継者の育成を目指しています。

鹿

屋



農

「環境と共生できる農業後継者の育成」

業

高

校



エコスクールバス



バイオディーゼル燃料の給油

バイオディーゼル燃料(BDF)利用に関する研究

バイオディーゼル燃料だけで走る「エコスクールバス」を発車させました。そのほか、トラクタや施設園芸暖房機などの燃料として活用しています。



エコレンジャーによる発表



小学生とのナタネの収穫作業

地球温暖化防止への活動

休耕地でナタネを育て農地荒廃を防いだり、ナタネの油かすをニワトリの飼料にしたりする研究に地域と一体となって取り組んでいます。

研究の内容については、コンテストで発表しました。

専門高校で将来のスペースシャリストを

目指そう！

鹿児島水産高校

県内には農業、工業、商業、水産、家庭などさまざまな分野の専門高校があります。専門高校は、地域産業を担う将来の専門的職業人（スペシャリスト）、人間性豊かな職業人の育成につとめています。鹿屋農業高校と鹿児島水産高校の取り組みを紹介します。

「里海（ふるさと）の海」を守り、拓く人材の育成

鹿児島県教育委員会（鹿児島水産高校）と鹿児島県漁業協同組合連合会が連携し、生徒の現場実習、技術者による実践指導および共同研究、教員の高度技術習得などの実践を通じて、実践的な人材育成プログラムの開発に取り組んでいます。



栽培工学コースの現場実習（ブリ養殖）



海洋技術コースの実習（吾智網）

生徒の現場実習

海洋科海洋技術コースでは、生徒が沿岸漁業について理解し、漁業の重要性を再認識することで、後継者育成へつなげることを目指しています。

吾智網、バッチ網の現場実習を行った協力事業所の加世田漁協組合長 阿久根金也さんは、「国内の漁業はもとより、加世田漁協においても若い後継者が不足している。少しでも漁業の魅力を知ってもらいたい」と後輩たちに温かい目を向けながら話してくれました。



延縄操業で獲れたカジキ

鹿児島水産高校「薩摩青雲丸」での海洋航海実習

薩摩青雲丸では、マグロ延縄漁業や海洋観測調査などを通じて漁具・漁法に関する知識や技術などを習得する実習を行います。

生徒たちは、大海原での長期実習で人間的にも大きく成長します。



食品工学科の実習

技術者による実践指導

さつま揚げなど水産加工品の製造実習を行う食品工学科では、地元枕崎の株式会社松野下蒲鉾の重井一明工場長を招き、さつま揚げの実践指導が行われました。工場長から作業工程上の具体的な温度管理や水加減など細かな指導を受けました。生徒たちからは「企業の細やかな気配りを体験できた」との感想があり、今後「水高さつま揚げ」がさらにおいしい商品になることが期待されます。



機関コースの実習（鹿児島ドック）